



平成25年11月22日

タイ協定校との交流で育む国際感覚

<概要> 大学院保健学研究科は2005年11月に国際交流推進ワーキンググループを設置し、部局独自の国際交流を推進してきました。なかでもタイ国シーマハサラカム看護大学との交流は9年目を迎え、2009年には部局間協定を締結しました。その間、毎年、本学からは保健学科学部生のタイ研修訪問、タイからは教員の本学訪問というかたちで交流を続けてきました。また、2012年にはシーマハサラカム看護大学学長一行が本学を訪問し、両校の絆を深めました。そして、今年度からは、タイ国シーマハサラカム看護大学と保健学研究科との間で、学部学生の相互派遣が実現することになりました。

今回は2013年9月の本学学生のタイ研修と、10月のタイ学生の本学訪問の様子をご紹介します。

<本文>

保健学研究科では、2013年度（平成25年度）から、タイの協定校シーマハサラカム看護大学との学部学生の相互派遣を実現しました。9月には医学部保健学科看護学専攻の4名の学生がタイ国シーマハサラカム看護大学を、10月にはタイから4名の学生が本学を、それぞれ研修訪問し、これまで培ってきた交流を深めました。

交流開始は2005年12月から

きっかけは、2005年に他校に招かれたタイ教員が本学を見学訪問したことでした。

2006年から毎年3月に学部生をタイへ派遣

早速部局内に国際交流推進ワーキンググループ（WG）を立ち上げ、学生の国際交流支援のための組織を作りました。

2009年3月に部局間協定（MOU）締結

タイ国シーマハサラカム看護大学にて両校間で協定（OMU）を締結しました。

2012年11月にシーマハサラカム看護大学学長一行が本学訪問

昨年にはナルモン学長が本学を訪問、森田学長の表敬訪問他、特別講演会開催や研究科主催の交流懇談会で親交を深めました。

2013年より本学学生のタイ研修を9月期に変更して実施

去る9月16日～29日には医学部保健学科看護学専攻の4名の学生がタイ国シーマハサラカム看護大学を研修訪問、国際交流の大切さを学びました。今回で7回目の派遣となり、これまでに延べ43名の学生がタイ研修を体験しました。



PRESS RELEASE

2013年10月にタイ学生が初めて本学を訪問

10月9日～12日には、いよいよ初めてのタイ学生（4名）が本学を訪問しました。旭川荘児童院の見学、岡山大学病院での最先端医療のシャドウィング体験のほか、地域の保健・医療・福祉のそれぞれ研修訪問し、これまで培ってきた交流を深めました。

タイとの国際交流のこれから

保健学研究科では、2012年度から教員間の教育・研究交流を始めました。両大学に研究プロジェクトチームを立ち上げ、共同研究の準備をしています。また、現在の協定校との関係継続の他に、東北タイ地域の保健医療系大学連合（NEC NET）との新たな交流を始める計画もあります。

保健学研究科は、保健学・看護学教育では先進国であるタイとの交流を通して学生の国際的視野を広げ、国際保健感覚を持つ世界で活躍できる医療人・研究者の育成を目指します。

（この事業は2008年度より一部、学長裁量経費／大学戦略経費の補助を受けています）

<お問い合わせ先>

岡山大学大学院保健学研究科 教授

深井 喜代子

Tel&Fax : 086-235-6855